

「第九」と神戸

外山雄三

年末の、やたらにさわがしい「ジングル・ベル」が鳴り渡る頃になると、日本中どこへ行つても「第九」「ダイク」とレコード会社もオーケストラも、プロ、アマを問わぬ各種合唱団も、まるでモノノケにでもとりつかれたようになる。この有様を見たらベートーヴェン先生もさぞやびっくりするであろうが、どういうわけで12月と「第九」がかくも密接に結びついてしまったのか、どう考へても理由らしいものは見当らない。ベルリン・フィルは毎年12月に「第九」をやっているという説もある。しかし「だから……」ということでもなさそりだし、第一、ヨーロッパの他の町で、一年に一度「第九」を演奏する所などほとんどあるまい。演奏する側にも聴き手にとつても、それほどの大曲であり難曲であるこの名作が、まるで大晦日のはやり歌のシヨーのように「これをきかな」と一年が終った気がしない」というすさまじい流行になってしまったのはおそらくもありおかしくもあり、面白い。

神戸はもともと、すばらしい合唱団がそろって



いることで知られていた。いろいろな合唱コンクールの第一位を神戸だけで独占した年も何度かあるのではないか。それに、長く輝かしい伝統を誇る神戸女学院の充実した音楽教育も有名である。この女学院の合唱団といくつかのすぐれた合唱団をむすび合わせて神戸ならではの「日本最高」の第九をやろう、という非凡な着想は、音楽通とうより芸術全般に深い見識を持つておられた国際会館のK常務のプランであった。何回かこの「日本最高」を指揮させて頂いた者としては正真正銘、日本で考え得るもっとも美しく、洗練されたひびきの合唱で「第九」を上演出来たよろこびを多分忘れる事はあるまい。K氏が常務の席を退かれた現在でも、どうやらこれが年中行事として定着したらしいのはうれしい。

ウイーン・フィルハーモニー管弦楽団は同時にウイーン国立歌劇場管弦楽団でもあって、音楽家たちはその「歌劇場管弦楽団員」として月給をもらつていて、シンフォニー・オーケストラとしての演奏活動は、彼らの言葉によれば「道楽で」やつ

てているのだということは案外知られていない。そして、その「道楽」の方のオーケストラの運営は（世界でここだけだと思われるが）樂団員たち自身による完全な自主運営という、すばらしい形をとっている。だから、オーストリー政府と衝突してウイーンを去ったカラヤンを再び指揮台に迎えるかどうかの話しあいが、樂団全員が半々に分れて灰皿をぶつけあう大激論に発展したりもする。ウイーン音楽といえばちょっとリズムになりのいるワインナ・ワルツとポルカがその代表ということにならうが、その演奏はウイーンでも、このワイン・フィルだけが「本物」だと、よくワイン児たちが言う。そしてオーケストラも、大指揮者クレメンス・クラウス以後は、滅多なことはウイーン生れでない指揮者にワルツやポルカを指揮させない。そして、この誇り高いオーケストラ界の名門が年に一度だけ、趣好をこらしてワルツやポルカや、ギャロップやマーチばかりの、いわばウイーン音楽の粹を集めてたっぷり楽しめてくれるのが、レコードでもおなじみの「ニューアイ・コンサート」だが、実は正確にいうと、大晦日の夜八時開演のシルヴェスター・コンサート（日本語にすると大晦日音楽会とでもいふか）と元日午前十一時開演のノイヤールス・コンサート（ニューアイ・コンサート）が同じプログラムで、これを聴くためにヨーロッパ各地からファンが集つてるので、ウイーンにいても余程の幸運か、特別なツテでもない限り切符はほとんど手に入らない。指揮台にはクレメンス・クラウス没後ずっと、ヴァイオリンを手にしたコンサート・マスターのボシュコフスキーガ上ることに

なっているのは既に知られたとおりだが、一九六十年前後の、このオーケストラとカラヤンが最も密接な関係にあった時期でさえ、人気絶頂の音樂界的帝王にもこの演奏会だけは任せなかつた、という一種の心意気のようなものが、またひとつ魅力でもあらうか。

この「ニューアイ・コンサート」を日本に移せば、さしつめ歌舞伎の顔見世だという意見もあるが、神戸では五、六年前から数年続けて「労音」が「クリスマス・ポップス・コンサート」というのをやつたことがある。ふだんはしかつめらしくブルームスやブルックナーと格闘しているシンフォニー・オーケストラにジャズのフル・バンドや、ピリリと鋭い味のコンボを加え、更に本格的なジャズ歌手や若手のポピュラー歌手にも加わってもらい、全く新しい編曲でプログラムを作るというぜいたくさ。しかも内容は聞きなれたポピュラー名曲の数々を密度の高い演奏で、ということで、いわゆるポピュラー・ファンにも、クラシック・ファンにも好評を続けた。何かといふと理屈をつけて、「教養のために」音楽をきたがる日本人の惡習が、案外こんなところから、心から楽しむ、という風に変れるかも……、と期待していたのに、なぜか中絶しているのは本当に惜しい。

「クリスマス・ポップス・コンサート」と全く氣負わずに、しかもすばりと名付けたところも、いかにもスマートで洒落っていて、しかも少々ドンヨクな神戸らしく憎い。もはや名物になつた「第九」と共に、この豪華なクリスマスのたのしみの再開を望むや切である。

（指揮者）

● インタビュー／ブラジルから帰ってきた津高和一氏に聞く

ブラジルは私の性分に合つてゐるんです

★ 今度はどういうお仕事で行かれたのですか？

「サンパウロ総合大学の招待なんです。この大学の附属美術館で展覧会を行つたり「日本の現代美術」という題で講演を行ないました。個展の方は六月にリオデジャネイロで、七月にサンパウロの方でそれぞれ開き、講演は八月のはじめに「人間と物質」をテーマにして、やりました。今度ブラジルに行きましたのは二回目で、十一年ぶりなんですね。五月下旬にこちらを出発しまして八月に帰つてきましたから、約三ヶ月間ですね。主にリオデジ

ヤネイロとサンパウロにいました。日系の二世に知合いが多く、ブラジルの作家たちも皆私をよく憶えていてくれましてうれしかったですね。」

★ むこうにもいろんな美術館はあるのですか？

「サンパウロには、近代美術館と現代美術館の二つの立派な美術館があり、リオデジャネイロにも近代美術館があります。ブラジルの美術界はほとんどヨーロッパ的思考の系譜です。日系作家のウエイトはマナブ・マベ氏を頂点に台頭しはじめています。だがポルトガル人たちが



ブラジルを語る津高和一氏

ブラジルに移住してすでに四百年になりますし、イタリー人その他のヨーロッパ系移民の影響がいろんな面で強くでています。日本人は最初農業移民として行き近々百年未満の歴史です。芸術などの分野ではどうもまだ弱いようです。むこうでの美術文化に対する受け入れ体制は日本よりもずっと進んでいますが、残念ながら日系人のコレクターはほとんどないようです。文化に関心をもつ機会が少なかったのかもしれません。

とブラジル人の生活意識が東洋よりも西洋に近いせいなんでしょう、彼らは日本画壇よりも欧米に目をむけているようです。マナブ・マベ氏

が最近個展をやりましたが、ブラジルの人が日本にきて個展を開くというような事は少ないですね。これからはもつともっと日本とブラジルとの文化交流を進めていかねばならないと思っています。日系が七十万もいるのですから。」

★先生の絵を東洋的なものとしてみてはいますか？

「私の抽象絵画はいわゆる「東洋的」なものとして感じられても、抽象絵画には「東洋的」とか「西洋的」といった区別はありませんので、あまりそういった特別な目ではみられません。」

★十一年前と比較されて抽象絵画と具象絵画の比はどうでしたか。

「同等の受けとめかたですね。彼らは自我意識が強く、個性的です。自分の信じるもの徹底的に追求していくんです。ブラジルの画家はほとんどフリーで派閥がない、サンパウロエインナーで認められるのが登竜門のようになっています。日本のように徒党を組んだり、权威にたよってたりはしません。しかし最近の日本の美術団体も団体個別の特色がなくなり、隨性で動いているという感が強くなってきた。日本では、パターン意識が強く、附和雷動の流行の先走りが強い。ブラジル人はその様な搖れが少くしっかり自分ペースで歩んでいる」

★先生にとってブラジルは生活しやすいですか？

「ええ、生活しやすいですね。苦労していくと日本のように皆があくせくしている感じがないし、落着いている。このストーテンポにいらいらしてしまう日本人旅行者もいるようですが、私には丁度いい。隣がカラーテレビを買ったからひうちにも、というような事もないしどんな格好をしていても全然気にならない。自分のペースで生活できるというか、皆が背のびをしないから苦しくないんです。それに陽気で楽天的です。国民の大半が移住者であり、寄合いの所のものなので人種差別もなく、人種意識も少ないようです。夜の食事が遅く遅くまでレストランで飲んだり食べたりして楽しんでい

ます。私にはブラジルが性に合うんでしょうね。今までにも欧米のいろんな所にいきましたが、やはりブラジルが一番いいようです。背後に「自然」の力を強力に感じますし、いろんな制約がないので思いきり自分の力をのばせます。食べ物にしても何でも豊富にありますし、特に肉があっさりしてておいしい。気候がいいせいか皆さんよく程よくたべる。シユラスコ（焼肉）が代表的なものなんですが、自分で味つけして食べるんです。それから「フェジョワード」、日本でいえば土鍋のようなものにブタ肉のいろんなものと黒豆を入れて煮る料理ですがこれがとってもおいしい。それに彼らはピンガというメキシコのテキーラや日本の焼酒のようなのをよく飲む」

★有名なりオのカーニバルはどちらになりましたか？

「ええ、それは以前の時にみました。非常に開放的な楽しいお祭りでした。カーニバルと共に国技のフットボーラル（サッカー）にも大変な熱のいれようです。勝てばものすごい騒ぎになるんです。試合が行なわれるグランドが又とてもなく広く、反対側がかすんで見えないくらいです。観客は二、三十万は入るでしょうね。カーニバルやサッカーの期間中は花火をあげて街中が大変な騒ぎになるんですが、こうやって皆が一つの事に熱中し、一つの事に市民全部が参加するという事を通して市民の間に一つの連帯感というものが生まれるんですね。日頃バラバラになっている市民がこのカーニバルを通じて一つに結びつけられるというかたちです。今年はメキシコでサッカーのワールドシリーズがあり、ブラジルはそこで優勝しました。ペレ選手は国家の英雄であり国民のアイドルです。」

私の場合三ヶ月の滞在で、ブラジルの絵画から影響は受けませんが、ブラジルの広大な自然から刺激の影響の方が大きいと思います。広大とした自然に接しているといろいろ考えさせられますよ。来年も八月、九月にリオデジャネイロとサンパウロで個展を約束していますのでブラジルに行く予定にしています。」



MERRY CHRISTMAS

*クリスマスケーキのご予約はお早めに



北欧の銘菓 ユーハイム・コンフェクト

- 本社・工場 神戸市垂水区熊内町1(市立美術館東隣) TEL 22-1164・9865
- 三宮センター店 神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) TEL 33-2421・4314
- さんちか店 神戸三宮地下街スイツタウン TEL 39-3358

クリスマスのプレゼントは
カメヤで



おもちゃの **カメヤ**

- | | | |
|----------------|------------------|--------|
| 三宮方面のお實物は..... | さんちか店 ファミリータウン | ⑨ 4045 |
| | 三宮店 センター街大洋劇場東隣 | ⑨ 4969 |
| 元町方面のお實物は..... | 元町店 元町通3丁目山側 | ⑨ 0090 |
| | バンブウ店 元町通1丁目不二家前 | ⑨ 0768 |

●ファッショントリビュート
座談会／宮崎神戸市長を囲んで

日本に先がけるファッショントリビュート

宮崎辰雄（神戸市長）

福富芳美（神戸ドレスメーカー女学院院長）

中西勝

（洋画家・二紀会）

牛尾吉朗

（ウシオ工業社長）

編集部 今日は今年の締めくくりといたしまして、神戸

のファッショントリビュート及びファッショントリビュート文化の特徴、さらにどうすればファッショントリビュートある街づくりが出来るかということについて話合っていただきたいと思います。

★日本のファッショントリビュートを神戸に

市長 ファッショントリビュートのものは昔から神戸が先端を切っていましたね。昔は欧米やその他の国々の人達は神戸

港から入ってきましたし、戦前の特急「つばめ」などは神戸港から出ていたのですよ。だから神戸は世界人の交流の門戸だった。そういう所から神戸にファッショントリビュートはやってきたんですね。しかし人が飛行機で行き来するようになり、また情報や交通の手段が次第に発達するにつれて神戸が昔程流行の先端を行くという程にはならなくなつたようですが、最近又神戸から日本全国へ伝播しているようなものがあるんじゃないですか。それから今後は神戸が工業地帯として立つていいかと思います。立地条件から見て神戸を文化で立つていく都市にしたいと思っていますが。

福富 終戦後は流行といえば外国から入るものと相場がきまつていましたが、今はクリエイトする段階に来ました。そこで今まで神戸に育つて来た伝統ある感覚をいかして、日本のファッショントリビュートは神戸――したがつて

ファッショントリビュートは神戸から「生れる」ということになりました

ですね。

市長 「生まれる」という点ですが、制度でも何でも神戸が先鞭をつけたことが非常に多いです。灘神戸生協やスーパー「ダイエー」もそうですが、神戸で生まれて地方へどんどん伝達・拡大している形ですね。お菓子でもそうじゃないですか。洋菓子やパンなど。こういうことを考へると神戸というのは先端を歩きうる能力があるんじゃないかと思いますね。

牛尾 神戸の町は人間が住むのによいようにできていましたね。山があり海があり、南を向いているこの街は文化というものを中心に考えられる町です。神戸といふのは、街自体がファッショントリビュートに合つてゐるんですね。私の会社も今、ヨーロッパのトリンドル、ゴールズザック等と提携しているのですが、毎年、四半期毎に翌年のファッショントリビュートにおける形態、色彩をコンピューターによつて検討し、情報の交換を行つてゐるわけです。それは、下着から服飾に至るまで、あらゆる部門にわたっていますがそれを基盤にしてカルダン、ジバンシー、サンローラン等の協力をも要請し、そこで翌年の流行が決まって行くわけです。そういった意味でも情報センターの中心を神戸にもつてきてほしいものです。客船の出入りが多く、新国際空港ができるれば、ミラノ、パリから神戸へ直接フアッショントリビュートをもつくることができますし、こういった



宮崎市長

というのは神戸が一番多かったようです。そしてその人達が神戸に本当の「日常の洋服」というものを植えつけたわけです。神戸の女の人は自分で意識していなくてもちろんファッショニのいいとか悪いとかを見分ける力と自信をもっています。そこでこれからは、買って、着ることは東京・大阪の方が早くも多いでしょうが、創りだすのは神戸です。セーターにしてもファッショニ性のあるセーターを創りだしていますね。

既製服でも、ブラウスは特に神戸ではファッショニ性のあるいわゆるセンスの高いものをつくっています。そういうことを考えますとまったくファッショニを生み出す頭脳センター、いわゆる「ファッショニ情報センター」というものを作つて神戸を売り出すべきだと思いますね。

★神戸は工業都市から文化都市へ

いろいろな事を考えますと市自体が神戸のファッショニというもののテコ入れを願いたいものです。

福富 今日本にはいろいろなもの着る人はいますがそれを本当に着こなせる人は神戸にいますね。なぜってありますところは一朝一夕には身につかないからです。たとえば日本人がなかなか洋服がうまく着こなせないのは洋服を着ていた歴史がないからで、ヨーロッパ人はずっと何世紀もの間洋服を着ているんです。日本の中では神戸に同じことがいえます。神戸はまず条件がいい。外人がたくさんいる、といつてもいるだけではダメでやはり永いこと住みついてそこで生活している外人



福富 芳美さん

牛尾 この「頭脳センター」においては、パリやミラノの型紙が日本で売れるように、日本の型紙が海外へ出せるといった所までもつていきたいですね。外国では色の感覚が違うんです。デザインはいいけど色が悪い、というのがある。ですから同じファッショニを海外へもついていてもそれが合う国と合わない国があるんです。だからこれからはファッショニ界はそこまで考えてほしいのです。イエロー人種に合うのはこれだ、黒人にはこれだ、白人にはこれだ、とう所まで考えていかなければいけないと思います。そういうのが我々経済人として働きがいのある仕事にな

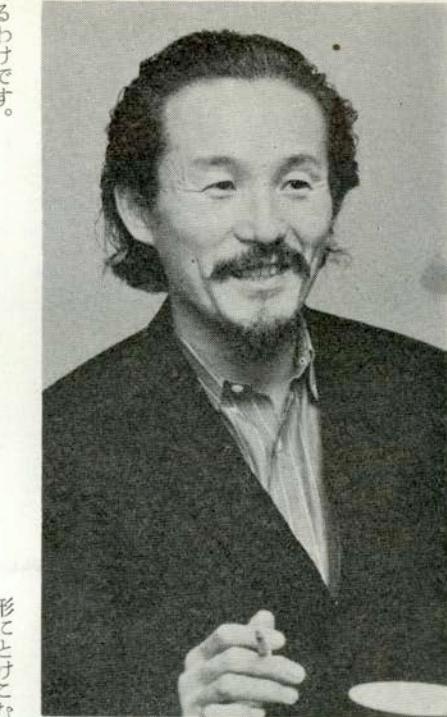


牛尾吉朗氏

福富 外国へ行く前と行ってからとでは色を見る感覚が変わりますね。やはり世界的な目で色を見られるようになります。形とか材質とかいいますけど先行するのは色です。日本人はどうも色がまだよくないと思います。

牛尾 市長は神戸の色をつくられたんじゃないんですか市長いや、緑が好きなものですから選挙の時にもシンボル色につかったんです。市の旗も緑です。それから歩道橋もすべて緑にしようかと思つていてるんです。

福富 色を市長さんが考える、というのが「神戸」ですね。神戸は何といつても色のいい街なんです。色に関連



中西勝氏

して、センスのいい物の考え方を生みだす街だと思います。又地形もいですね。他の大都市の真似られないことは、神戸はどんな洋服でも着られる街です。たとえば大阪の真中でリゾートウェアは着られませんが神戸では着ても何ともありません。「あの人は海に行っていたのかしら。それとも山からおりてきたところかしら。」といった風にうまく地形にとけこむんです。そういう意味で非常に明るく楽しい、ファッショントを考えたり着こなすのにふさわしい街です。それから神戸にあるほんの小さな店にでも京都や大阪からわざわざ買入くる人があるんです。どうしてかと申しますと、神戸の店にはいいセンスで選択したものを並べていますのでその中からどれを買ってもすばらしいものが買えるわけです。ですから、持つてくるセンスがいいから神戸でものを買えはいい、というふうに私は解釈しています。

牛尾 私の所で今度「ゴールズザック」と書いたファンデーション用のパーツを百貨店その他で一斉に売り出すつもりなんですね。おもしろいことに日本語で「ウシオ工業」と書いたら売れないのに「ゴールズザック」と書きますとパーツと売れるんです。それから百貨店でゴムヒモの巻を三十メートル百円で売つてゐるわけですが、ゴールズザックへ行きますと三メートル百円できれいなケースに入れて売つています。所が三メートル百円のものが売れて三十メートル百円のものが売れないんです。これが日本人の感覚なんですね。商品でもセンスのいい形で売ると買う時代に

なってきたんです。戦後二十五年で日本人の感覺もだいぶ変わりましたね。

市長 價値判断が違つてきたんですよ。先程も申しましてようすに神戸は工業都市から文化都市へと変わりつあります。昔は工場誘致というものが至上命令だったのですが、今ではもうそんな考えは時代遅れですね。

牛尾 ですから今ここで神戸のファッショソ産業がはつきりとした形でとりあげられるのはいいタイミングですね。中西先生は四年程海外に出られていて、ファッショソというものをどのように感じてこられましたか。

中西 何しろ旅が旅だったので余りハイクラスの所はまわらなかつたんです。ニューヨークならヒッピーのたまり場とか、ロンドンなどでもヒッピーの集まる骨董品屋とかに行きました。そういう所で感じた事は形が先でそしてそこに雰囲気ができきたのか、あるいはファイントをもつた人間がいるのでそういう形がでてくるのかよくわかりませんがヒッピーなどには大変個性をもつた者が多いんです。日本でも個性をもつた美術学生が横行した時代がありましたが、私が日本を出る前のモダンな人々はヨーロッパナイズされただけで、そう個性というものがなかつたように思うんです。ところが歐米にいつてみるといわゆる「ヒッピースタイル」という個性をもつた者が非常に多いのに感心しました。それからもう一つ感心しましたのは、ロンドンへ行きましたらある一角におベラだと芝居関係に使うような古着の衣裳ばかりを売っている所がありまして、そこにはいろんな服装をした若者がいるんですね。そういった所に超ミニスカートをはいた上品なお嬢さんが、上品なお母さんといつしょに見物にきていらっしゃるんです。そういうのをみますと、何か非常に自由な、むしろメキシコとかモロッコについて感じたあの湧きあがるような喜びを感じましたね。話は変わりますが私はずっと以前からこうして髪をはやしているのですが、神戸では東京や大阪ほどジロジロとみられることがありませんでした。それだけ神戸は

自由で個性があり、幅のある可能性をもつた街だと思いまますね。そういう意味で神戸の人にもつと意欲的なものがあつた方がいいのか、あるいは形があるのにそういうものが出てこないのか、そのバランスの問題を感じます。老いも若きももつとバイタリティがあつていいですね。

★ファッショソ性ある街づくりを

牛尾 これだけ自由な街なのにどうして神戸には文化人サークルといつたものが育たないのでしょうか。

福富 サークルはたくさんあるんでしょうがまとまりませんね。

市長 それは、現在の社会は商業主義ですから集積の利益というものが働いており、何でも東京・大阪に集中するんですね。しかしこれももう限界効用に達するでしょうから、そうすればファッショソならファッショソでも地方へ流出するようになりますからその時神戸がこれを受け入れる能力をもつてていれば又もどつてきますよ。情報・交通の手段が発達すれば何も東京に住む必要はないなってきますし、そうなれば日本の頭脳が神戸に住むようになるということだつてありうると思います。そこで私達は文化の高い街づくりをめざす必要があるわけですか。たとえばボートアイランドの隣にニュー・コーベアイランドを造る予定なんですが、私はその中に山や川も全部造るつもりなんです。といいますのはそこが輸送の中心になるだけでなく、同時に頭脳が住みつけるような場所にもしたいのです。神戸の人の頭脳、伝統、習慣といったものを考えてみますと最初にいいましたように日本で初めてやつたものが非常に多いです。市がやっているものでもそういうものがたくさんあります。

牛尾 これから神戸におけるファッショソ産業も、日本に先がけていろいろいいものをつくつていただきたいですね。

*Merry
Christmas*

ファンシーチョコレート



ひとつぶひとつぶが

個性豊かなメロディーの持主

クリスマスプレゼントに

ことしもぜひお選び下さい。

チョコレート * キャンデー
ゴンチャロフ

直売店 さんちか・スイーツタウン TEL ⑨-3563
直売店 神戸商工貿易センタービル TEL ⑤-0237



*ランジェリー
*ナイトウェア
*ブラウス
*ボームウェア
*セータ
*パンツ

婦人服飾とおしゃれ洋品の店

Sgy **スギヤ**

本店 神戸市生田区三宮町3-15 TEL 078(33)3436
六甲店 神戸阪急六甲駅構内ファミリーストア TEL 078(87)2731
東京店 東京都豊島区南池袋パルコ地下1階 TEL 03(987)0567
大阪店 大阪梅田阪急三番街地下1階 TEL 06(372)4877

神戸にそだって 70年

風月堂

元町 3丁目 TEL. 2412~5
さんちかスイーツタウン TEL. 3455

Kitamura Pearls

キタムラパールの輝きは
愛する人の優しさです

WGK14 PEARL RING

世界の人々に愛される北村パール

北村真珠店

元町通 2丁目 60 TEL. 33-0072